

福津市中央公民館の利活用に関するアンケート調査について

福津市中央公民館においては、子どもから高齢者まで多様な世代が快適に利用できる社会教育の拠点施設を目指し、中学生・高校生を対象としたアンケート調査を行い、未来を担う若年層の率直な声を集め、施策立案の糧とします。

1 調査の背景と目的

現在、公民館の利用は成人層以上が中心で、若年層の利用が少ない状況が続いている。一方で、学習支援、居場所づくり、文化活動、部活動の地域移行など、子どもの成長を支える機能を地域で充実させる必要性が高まっています。

そこで本調査では、

- ・中・高校生が公民館に対して抱くイメージや利用実態
- ・利用しづらさの要因
- ・「あつたら利用したい」機能や設備
- ・若い世代の視点から見た改善案、新しい活用ニーズやアイデア

などを把握し、今後の施設整備やサービス改善、情報発信等の施策を立てるための検討材料とする目的としています。

特に、近年ニーズの高まる「学習室」の設置可能性については、中・高校生の考え方を問う重要な機会と位置付けています。

2 調査設計における配慮事項：

(1) プライバシー保護と匿名性の確保について

個人を特定できる情報の収集は避けることを明記します。回答データは統計的処理のみに使用し、個別の回答内容が特定されることができないよう厳重に管理します。

(2) 回答率向上のための取り組み

各アンケートの冒頭に所要時間を明記し、回答者が時間的な見通しを持てるようにします。また、学校との連携により、部活動・生徒会等を通じた協力要請も検討しています。

3 結果分析と活用の視点

（1）地域特性の把握について

学校名データを活用することで、公民館からの距離や地域特性による利用状況の違いを分析します。特定の学校区からの利用が少ない場合は、その地域への重点的な広報活動や交通アクセス改善の必要性を検討する材料とします。

（2）交通アクセス改善策の検討

交通手段に関するデータから、駐車場整備の必要性、自転車置き場の充実、公共交通機関との連携強化など、具体的なアクセス改善策を検討します。徒歩圏内の利用者と遠方からの利用者のニーズの違いも重要な分析ポイントとします。

（3）イメージ改善と広報戦略

現在の公民館に対するイメージ調査結果を、今後の広報戦略や施設運営方針の見直しに活用します。「古い・利用しづらい」といったネガティブなイメージが強い場合は、若い世代向けのリニューアルや情報発信方法の抜本的な見直しについて検討します。

（4）多世代交流促進の具体策

ハード面（設備・環境）とソフト面（プログラム・サービス）を明確に区別して分析することで、世代を超えた交流を促進する具体的な施策の立案を目指します。特に、デジタルネイティブ世代のニーズ（高速 Wi-Fi、SNS 活用、e スポーツ等）などが実際にどのくらい（量および質）あるのか分析します。